

にいがた子どものメンタルケア・ネットワーク 「子どものメンタルケア事例検討会（第1回）」開催要領

1 趣 旨

近年子どものこころの問題は、発達障害、虐待、いじめ、不登校、ひきこもりなど複雑化、多様化している。また、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）蔓延による学校・家庭生活の大きな変化は子どもたちにさらなるストレスを与え、これらの問題をより重篤なものにしている。

このような背景から子どものこころの問題に対する医療ニーズが増大しているが、このような状況に対応するためには、医療だけでなく、教育、保健福祉といった幅広い分野の専門家による支援や各分野のネットワークの構築が重要である。

本県では、令和3年度に児童精神ケア体制検討ワーキングチームを設置し、子どものこころの問題の対応の方向性について検討しているところであり、その中でも人材育成やネットワークの重要性について議論されている。

このような中、子どもにかかわる教育・医療・保健福祉の関係者に対して、子どものこころの問題に関する理解、対応力の向上及び関係機関の連携を深めることを目的として、「にいがた子どものメンタルケア・ネットワーク」と称し、事例検討会を行うこととした。

2 主 催

新潟県

3 共 催

新潟大学医学部

4 日 時

令和4年10月28日（金） 午後6時30分から午後7時30分まで

5 内 容

開会挨拶 新潟県福祉保健部長 松本 晴樹
新潟大学医学部長 染矢 俊幸 先生

事例検討の進め方について

意見交換 学校現場、臨床現場で困っていること等

（※今回の第1回目は、事例検討を行いません。どのようなことを学びたいか、参加の皆様のご意見をお聞きする場となります。）

6 講 師

新潟大学医歯学総合病院精神科 講師 江川 純 先生

新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学寄附講座 特任准教授 杉本 篤言 先生

7 対象者

教育関係者（教員・養護教諭・SSW・SC・学校医等）、医療従事者（小児科医・精神科医等）、保健・福祉関係者

8 開催方法・定員

オンライン開催（使用ツール Zoom）・定員先着 300 人



9 申込み方法

「新潟県電子申請システム」下記の URL もしくは右の QR コードからお申し込みください。

URL : https://s-kantan.jp/pref-niigata-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=2686

※参加に必要なとなる URL 等の情報は、申込みの際に記載いただいたメールアドレス宛に、10月26日以降、ご連絡します。

※メールアドレス1件ごとに、参加に必要な情報をお送りします。

複数の方が端末1台を共有して参加いただく場合は、代表1名のお申込みで結構ですが、「新潟県電子申請システム」入力項目の備考欄に代表者以外の参加者の所属・役職・氏名を入力してください。

10 申込期限

令和4年10月24日（月）午後5時まで。ただし、定員になり次第締め切ります。

11 留意事項

- ・ 御参加にあたっては、通信環境等の理由により難しい場合等を除いては、カメラをオンとしてください。
- ・ Zoom 画面の写真撮影、録音及び外部への流出等は禁止します。

12 その他

検討したい事例を受け付けています。

【講師紹介】

江川 純

新潟県児童精神ケア体制検討ワーキングチーム委員。平成15年、新潟大学医学部医学科卒。平成20～21年、あいち小児保健医療総合センターに国内留学し杉山登志郎先生に児童精神科診療を学ぶ。自閉スペクトラム症（ASD）の病態研究に従事し、平成30年～令和2年にマイアミ大学神経外科学 Vance Lemmon 教授の研究室へ留学。その後も県内の複数の施設で児童・発達障害の専門外来を担当しつつ、ASDの病態研究を続けている。

杉本 篤言

子どものこころ専門医、日本児童青年精神医学会認定医、新潟県児童精神ケア体制検討ワーキングチーム委員。平成17年、新潟大学医学部医学科卒。平成22～23年、あいち小児保健医療総合センターに国内留学し杉山登志郎先生に児童精神科診療を学ぶ。平成26～30年、新潟県立精神医療センター児童精神科病棟長。ADHD薬理研究、ADHD脳画像研究、脳磁図（MEG）を用いた自閉スペクトラム症の脳画像・病態研究、ウェアラブル表情筋筋電図によるヒトの快・不快感情分析研究等に取り組んでいる。